

牛群検定通信 No40

◇気をつけよう！分娩直後の体細胞数◇

まだまだ、暑い日が続いています。夏季は乳牛の体力（健康）が低下し、体細胞数が増加する受難の時期です。体細胞数は衛生、搾乳、飼養……とあらゆる乳牛管理が影響する極めて複雑な問題です。体細胞数の解説だけで、まさに本を何冊でも書ける大きな問題ですが、ここでは、あまり話題を大きくせず、分娩直後にマトを絞って解説します。

1) 2産以上の牛で分娩直後の体細胞数が高い場合

この場合、真っ先にチェックしなければならないのは、乾乳期の管理です。牛群検定は、月に一度の実施ですから、分娩直後といってもどうしてもある程度は分娩後日数が経過してしまっています。ですから、分娩後の不衛生な搾乳で感染する場合がありますが、今回は、次のような乾乳期管理を確認してみてください。

a) 乾乳期の乳房炎治療

前の乳期で乳房炎だった牛は、獣医師の指示の通り十分に乾乳期間をとり乳房炎を治療します。

b) ディッピング

乾乳直後は、乾乳軟膏を使用しても乳頭孔は完全に塞がりません。乳頭孔が閉じるまでの7～10日間はディッピングを継続するようにします。
また、分娩前に漏乳するようでしたら、やはりディッピングを行います。

c) 分娩房を清潔に保つ

分娩房は清潔な敷料を十分に用いて、使用の都度殺菌するようにします。

2) 初産の牛で分娩直後の体細胞数が高い場合

初産分娩直後という牛群のなかで限定された期間の乳房炎はついつい見逃しがちです。しかし、このパターンは数ある乳房炎のパターンでも最悪のものです。長い育成期を経て、さあこれから長く稼いでもらおうという初めての検定時にすでに乳房炎を罹患していたのでは、とても長く働ける牛にはなり得ないからです。ですから、分娩後の初めての検定成績は必ず体細胞数を確認します。もし、思わしくない場合は、ほ乳育成の管理に問題点を含んでいるので、次のようなことをチェックしてみましょう。

a) 放牧、運動場の管理

ブッシュや泥濘化は未経産牛であっても乳房炎の原因となります。

b) 吸血昆虫の駆除や犬猫など

吸血昆虫は乳房炎のみならず、盲乳の原因となります。また、犬、猫などが感染源になることもあります。

c) 乳房炎乳を子牛に与えない

乳房炎に罹患している牛の廃棄予定の生乳を用いると、互いになめ合ったりして、子牛の口腔から乳房炎に感染する場合があります。